

めぐみイエス・キリスト教会

2019年12月1日(日)第一アドベント礼拝
週報「通算第482号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまづくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年12月1日 第一アドベント礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌79「あめには栄え」 p. 108
- 【交読文】 No.46 詩篇第148篇 p. 915
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌75「神の御子は」 p. 102
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.14 「み言葉にかえろう」
- 【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章26節～29節(新約p. 205上段)
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《見ずに信じる者》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 ヨハネの福音書20章26節～29節(新約p.205上段)

20:26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたにたにあるように。」と言われた。

20:27 それからトマスに言われた。「あなたの指をここにつけて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私のわきに差し入れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」

●ポイント1.一週間前の出来事とは？

※ヨハネの福音書20章24節～25節「週の始めの日に」(新約p.205上段)

20:24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたときに、彼らと一緒にいなかった。

20:25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たちは主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみなければ、決して信じません。」と言った。

※使徒の働き1章13節～14節「イエス様の昇天の後に」(新約p.208下段)

1:13 彼らは町にはいると、泊まっている屋上の間に上がった。この人々は、ペテロとヨハネとヤコブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコブと熱心党员シモンとヤコブの子ユダであった。

1:14 この人たちは、婦人たちやイエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちと共に、みな心を合わせ、祈りに専念していた。

●ポイント2. 主イエス様の弟子たちへの預言から

※ヨハネの福音書16章22節～24節「もう一度会います」(新約p.196上段)

16:22 「あなたがたにも、今は悲しみがあるが、私はもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。

16:23 その日には、あなたがたはもはや、私に何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、私の名によってそれをあなたがたにお与えになります。

16:24 あなたがたは今まで、何も私の名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」

●ポイント3.「見ずに信じる者」とは？

※ペテロの手紙第一1章1節～8節「栄えに満ちた喜び」(新約p.415上段)

◎先週のメッセージの概要【いなかったトマス】

《さて復活されたその日の夕方のことです。ルカの福音書によりますと、『これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。』と書かれています。

この場所は、ヨハネ・マルコの家と言われています。実はこの時、十二弟子の一人、トマスはいませんでした。しかもその事をヨハネが書き記したのは、ルカの福音書が書かれてから、30年～40年後のことです。

ところで、トマスとはどのような人物なのでしょう。ヨハネは、主がラザロをよみがえらせる為、ベタニヤに向かわれた時、「私たちも行つて、主と一緒に死のうではないか。」と、トマスが言ったことを、書き記しています。

この時、まだ弟子たちは、イエス様を政治的メシヤと信じていましたから、この意味は、「共に戦おう」と言うことです。つまりトマスは、腕っぷしに自信を持っていたと思われるのです。弟子たちは、剣を二振り持っていました。一本はペテロ、そしてもう一本はトマスではないのでしょうか。

それでは、なぜこの時トマスはいなかったのでしょうか。もしエルサレム市内にいたのなら、誰かが迎えに行かないのでしょうか。このことから、トマスがエルサレム市内には、いなかった可能性は非常に高いのです。

それではどこにいたのでしょうか。何か私用で外に出たのでしょうか。いいえ、この時弟子たちは、非常に緊迫した状況の中に追い込まれていたのです。だからこそカギをかけて潜んでいたのです。

推測ですが、ゲッセマネの園において、弟子たちは二手に分かれました。すなわちエルサレム組(ヨハネとペテロ)、とベタニヤ組(九弟子)です。ベタニヤにいた八弟子は、週の始めの日にエルサレムに戻りました。

しかし、トマスは「腕っぷし」に自信がありました。剣を持っていました。つまりトマスは、あえてマルタとマリヤとラザロを守る為に、ベタニヤに残ったのではないのでしょうか。なぜなら祭司長たちは、主だけでなくラザロをも殺そうとしていたからです》

◎お知らせ

※12月となりました。そして、アドベントに入りました。次回礼拝は12月8日です。また次回「聖書の学びと祈り会」は、12月4日(水)に行ないます。